

授業概要

人類は生物多様性(ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体)のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存している。しかし、現代社会は生物多様性による恩恵を過小評価し、環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している。

本講義では、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性」を捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的としたい。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「ヒトと自然とのつながり」に焦点をあてつつ、生物多様性保全について理解できるよう講義を行なう。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(講義の進め方や成績の評価方法などについて)
第 2 回	野生動物への餌づけ(野生動物へ餌をあげることによる影響)
第 3 回	野生動物の交通事故(野生動物の交通事故の原因と対策)
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1(レッドリストとレッドデータブック)
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2(生物が絶滅する原因)
第 6 回	森林機能と緑のダム(きれいな水を生み出すしくみ)
第 7 回	河川にすむ生き物たちとダム(ダムが生み出す功罪)
第 8 回	干潟にすむ生き物たち(「諫早干拓事業」を通して考える現代の農林水産業)
第 9 回	漁業資源の枯渇(魚介類の消費と乱獲から考える南北問題)
第 10 回	サンゴ礁にすむ生き物たち1(海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ)
第 11 回	サンゴ礁にすむ生き物たち2(沖縄に集中する米軍基地と環境問題とのかかわり)
第 12 回	戦争と自然破壊(今も続くベトナム戦争やイラク戦争の爪痕)
第 13 回	山と海をつなぐ川1(山は海の恋人とよばれる理由とは)
第 14 回	山と海をつなぐ川2(サケ・マス類の研究からわかる山と海をつなぐ)
第 15 回	文明の崩壊と自然破壊(古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性)
第 16 回	筆記試験

到達目標

「環境問題は社会問題である」ことを理解するために、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する習慣を身につけることができるよう、受講者の「多面的視点」を養成することを目的としたい。また、講義毎(講義時間内に行なう)に必ずレポートを提出させることによって、講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、理解する訓練としたい。

履修上の注意

受講生にとって興味深いであろう、とっておきの問題の題材ばかりを集め、また、人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意している。魅力的な講義となるよう尽力しているので、やる気のない受講者に対しては厳しく対処することを了承いただきたい。ガイダンスに出席していない者の受講は原則的に認めないので注意するように(どうしても出席できない場合はガイダンスの事前に、あるいは2回目の講義前までに欠席理由とともに申し出ること)。携帯電話を講義中に操作する者、断りもなく出歩く者は本講義の受講を固く禁じる。

予習・復習

予習については事前に指示があった場合のみ準備を行なうこと、復習については、講義で強調した内容を次の講義までに整理しておくことを習慣にしてほしい。

評価方法

レポートと筆記試験によって評価する。ただし、評価の80%は講義毎に提出するレポートの総合得点に、20%は筆記試験を当てるものとする。

テキスト

- 教科書名:『生物多様性と現代社会:「生命の輪」30の物語』
- 著者名:小島望
- 出版社名:農山漁村文化協会